

毎年10月15日～21日は新聞週間。日本新聞協会が選んだ今年の代表標語は「新聞で見分けるフェイク知るファクト」でした。まさしく読者は、新聞から社会の出来事の事実（ファクト）を知り、新聞を手がかりにして偽（フェイク）情報を見抜くことができます。

今日の情報社会では、マスメディア（新聞、ラジオ、テレビ）やインターネットが提供する膨大な情報を主体的に受容し、その真偽を判断できる能力（メディアリテラシー）が強く求められています。その大切さを理解するため、新聞とネットを比較し、それぞれの長所と短所を考えさせるという学習が有効です。

最近では新聞を購読しない家庭も増え、ニュースなどの情報把握は



## カマティー 鎌田先生のNIE事始め

もっぱらインターネット頼りという人も多くなりました。しかしネットで出回る情報は玉石混交（ぎよくはんこう）です。無責任な臆測（おそそく）や悪意の中傷も含まれています。

その点新聞情報の信用度は高く、ネット時代においても新聞の果たす役割は大きいと言えます。実際、ネットを流れるニュースのかなりの部分を新聞社発のものが占めています。

一方で今回の衆議院選挙でもそうですが、マスメディア報道が偏向しているのではないかとという厳しい批判がネットで広がっていました。公正な判断を下すのに必要な情報が、読者に適切かつ十分に提供されているかどうか。この問いは私たちが新聞を読む際、また新聞を教材化する際にも心に留めておきたいことです。

（清風高校教諭）

# 新聞とネットを比較しよう

次回は12月2日掲載

NIE@産経

